取扱説明書

Victor

PS-D700

デジタルマルチプロセッサー



VOSS

Victor Original Sound System の略で、プロオーディオ機器の登録商標です。

ー お買いあげありがとうございます ー

ご使用の前にこの「取扱説明書」と「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に大切に保管してください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機の製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかについてお確かめください。

私たちは環境・資源を大切にしています。
この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙（古紙100%）を使用しています。

Victor JVC
日本ビクター株式会社

お客様ご相談センター
〒113 東京都文京区本郷３－14－７　ビクター本郷ビル　電話（03）5684－9311
〒543 大阪市天王寺区小橋町10－16　大阪ビクタービル　電話（06）765－4161
システム事業部
〒192 東京都八王子市石川町2969－2　電話（0426）60－7243（ダイヤルイン）

SS961065-002

このたびは
デジタル マルチ プロセッサー
PS-D700を
お買いあげいただき
ありがとうございます

本機の特長

- 高音質
  24ビット・フローティング方式 A/D によりダイナミックレンジ112dBを実現。K2インターフェースによるアナログ感覚の高度な音づくりとあわせて、自然でくせのない音質です。
- 大形 LCD 採用により、認識性を大幅UP、設定内容を一つの画面にまとめる事によりセッティング操作のわずらわしさを排除、チェックも確実にでき、スピーディなセッティングができます。
- 3つのロータリーエンコーダを採用により、データー入力及び設定がアナログ感覚で行なえます。
- 用途に応じ自由なセッティングができるように、5つのモードが用意してあります。
- RS-485 による通信制御により、各パラメーターの設定が外部より制御可能です。

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味について、「安全上のご注意」に詳しく記載されていますので、その内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

■万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、又はブレーカーを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。



電源プラグをコンセントから抜くこと

⚠ 警告

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードの継ぎ足しは火災や感電の原因となりますので、おやめください。
- セット内部に触れることは危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は販売店へお任せください。
- この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因になることがあります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
  ラックに組込むときには、2台設置したら1H以上のスペースをとるようにしてください。
- 本機は日本国内専用です。
  必ず商用電源**AC100V 50/60Hz**でご使用ください。

⚠ 注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらずに、かならずプラグを持って抜いてください。
- コードが熱器具に触れたり、近づくことがないようにしてください。被覆が破れたり変形し危険です。
- 製品に悪い影響を与えますので、ほこりや振動の多い所には置かないでください。
- 傾いた所や弱々しい台など、不安定な場所には置かないでください。万一、落ちたり倒れたりすると大変危険です。
- キャビネットが汚れたら中性洗剤などで汚れを落し、乾いた布でふきとります。シンナーやベンジン、殺虫剤など揮発性のものかけたり、またゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。プラスチックの中に含まれる可塑剤(かそざい)の働きにより変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

目 次

本機の特長 …… 2
安全上のご注意 …… 2
動作モードの説明 …… 4
接続のしかた
- 接続例1 …… 6
- 接続例2 …… 6
- 接続例3 …… 6
- 接続例4 …… 7
- 接続例5 …… 7
- 接続例6 …… 7

フロントパネルの名称と働き …… 8
リアパネルの名称と働き …… 9
操作のしかた1
- 動作モードの設定 …… 10
- グラフィックイコライザーのつかいかた …… 11
- パラメトリックイコライザーのつかいかた …… 12
- ノッチフィルターのつかいかた …… 13
- フィルターのつかいかた1 …… 14
- フィルターのつかいかた2 …… 15
- フィルターのつかいかた3 …… 16
- ディレイのつかいかた1 …… 17
- ディレイのつかいかた2 …… 17
- ディレイのつかいかた3 …… 18
- ディレイのつかいかた4 …… 18
- アッテネータのつかいかた1 …… 19
- アッテネータのつかいかた2 …… 19
- 位相切替のつかいかた …… 20
- コンプレッサーのつかいかた …… 21
- リミッターのつかいかた …… 22
- スイッチのつかいかた …… 23
- 出力レベルメーターのつかいかた …… 24
- スペクトラム アナライザのつかいかた …… 24
- ユーティリティのつかいかた …… 25
- タイトルのつかいかた …… 26
- メモリー保存・呼び出しのしかた …… 27
- リコールのつかいかた …… 28

通信でできること …… 30
操作のしかた2
- 1. リンク機能(パラメータ) …… 31
- 2. リンク機能(メモリーの呼び出し・保存) …… 32
- 3. メモリーデータのコピー(送信) …… 33
- 4. メモリーデータのコピー(受信) …… 33
- 5. メモリーチェンジ機能 …… 33
- 6. 接続のしかた …… 34

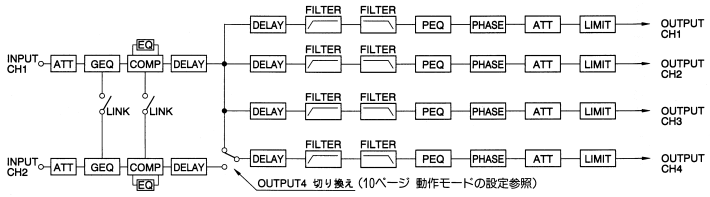
接続ケーブルについて …… 34
パターンコントロール端子について …… 35
リモート端子について …… 36
保証とアフターサービスについて …… 37
セッテングの際のご注意 …… 37
仕様 …… 38
外観寸法図 …… 39
ブロックダイヤグラム …… 39

動作モードの説明

本機は使用する用途に応じ、最適な設定ができるよう５つのモードを持っています。
ご使用になる前にシステムに合うモードに設定をおこなってからご使用ください。

モード１ チャンネルデバイダーモノラルモード

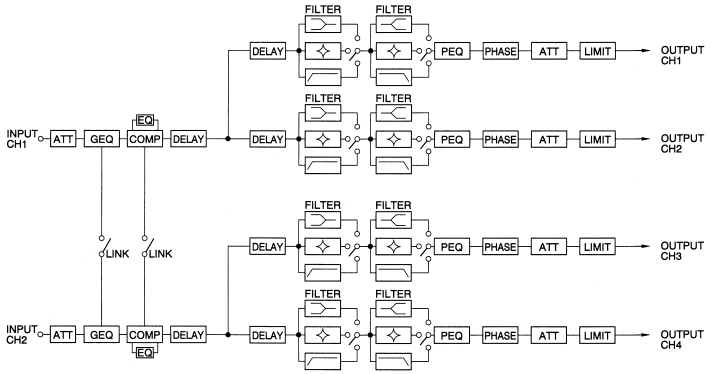
３WAY 又は ４WAY のチャンネルデバイダーとして使用することができます。
MODE１の中の選択で、行ないます。



（用途に応じ 3WAY＋1WAYと 4WAYを選択してください。）

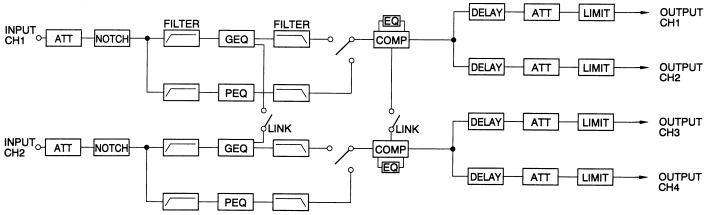
モード２ チャンネルデバイダーステレオモード

２WAY マルチドライブスピーカーにおいてステレオのチャンネルデバイダーとして使用することができます。



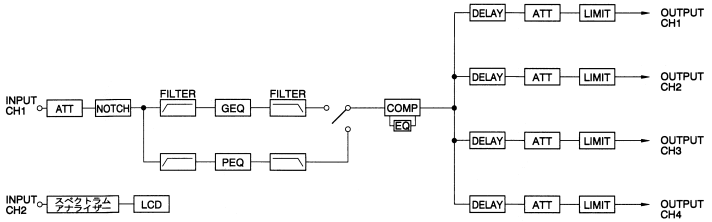
モード３ イコライザーステレオモード

イコライザー、コンプレッサー、ディレイ等をステレオで使用することができます。



モード４ イコライザーモノラルモード

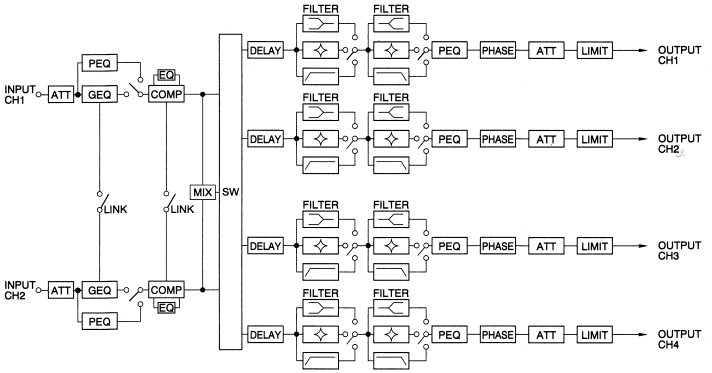
グラフィックイコライザー(54素子)、コンプレッサー、ディレイ等をモノラルで使用することができます。



スペクトラムアナライザーは、セッティングの際に、伝送特性を調整するときの目安としてお使いください。

モード５ 音場制御モード

イコライザー、コンプレッサー、ディレイ等をステレオで使用することができ、入力から出力への選択も自由に行うことができます。



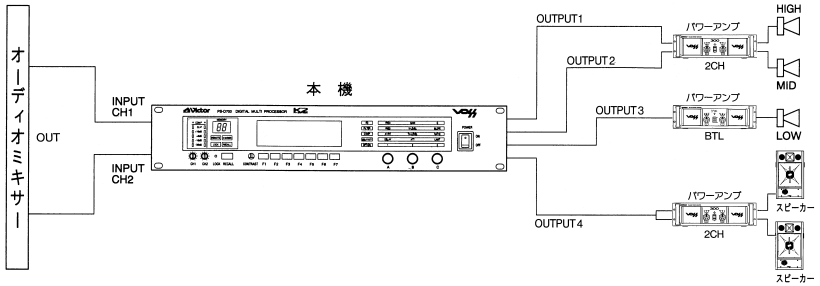
表示と機能の説明

表　示	機　　能
GEQ	グラフィックイコライザー機能：音場および音質調整に使います。
PEQ	パラメトリックイコライザー機能：スピーカーのピーク/ディップを補正するときに使います。
COMP	コンプレッサー 機能：系統の信号に対して過大入力からスピーカーを保護するときに使います。
DELAY	ディレイ 機能：音を遅延させるときに使います。
ATT	アッテネータ 機能：音量を小さくするとき使います。
LIMIT	リミッター 機能：過大入力からスピーカーユニットを保護するときに使います。
FILTER	フィルター 機能：不用な帯域の音声を出力させたくないときに使います。
SW	スイッチ 機能：入力を任意の出力に出すときに使います。
LINK	リンク 機能：CH1入力とCH2入力の設定を同時に変化させる時に使います。
PHASE	位相切替 機能：位相を正相又は逆相に変えるときに使います。
NOTCH	ノッチフィルター 機能：ハウリングやハムノイズを取るときに使います。

接続のしかた

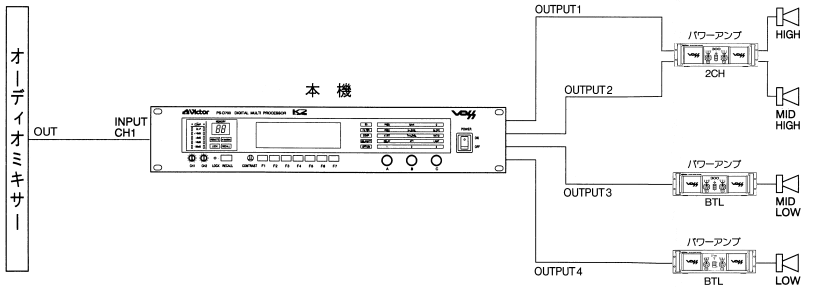
接続例1 モード設定：モード1

モノラル3WAY および フルレンジ



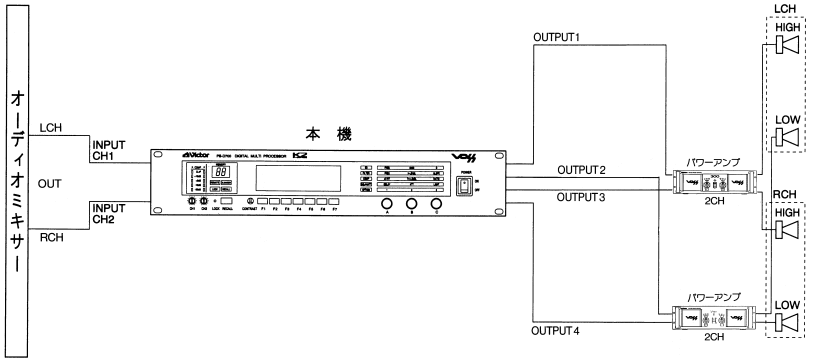
接続例2 モード設定：モード1

モノラル4WAY



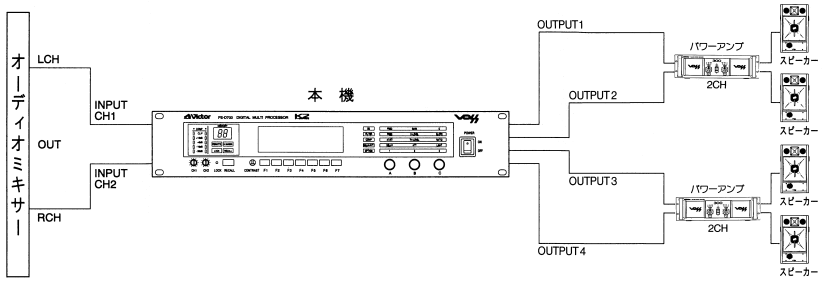
接続例3 モード設定：モード2

ステレオ2WAY



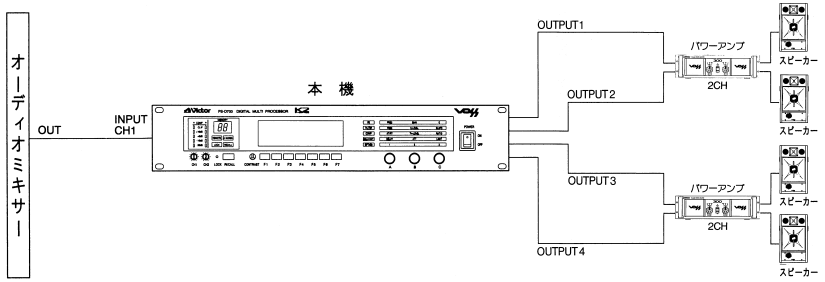
接続例4 モード設定：モード3

ステレオイコライザー



接続例5 モード設定：モード4

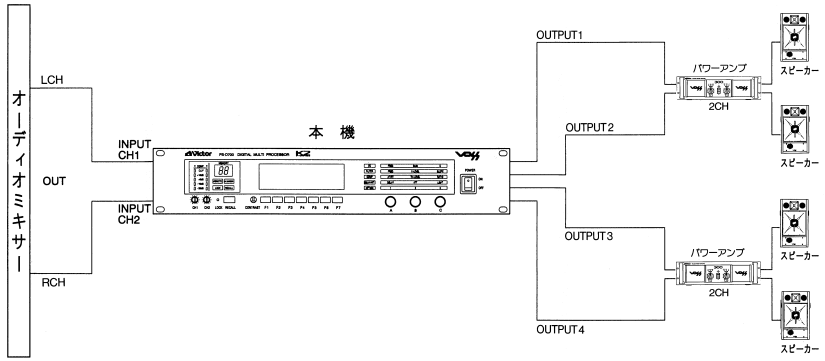
モノラルイコライザー



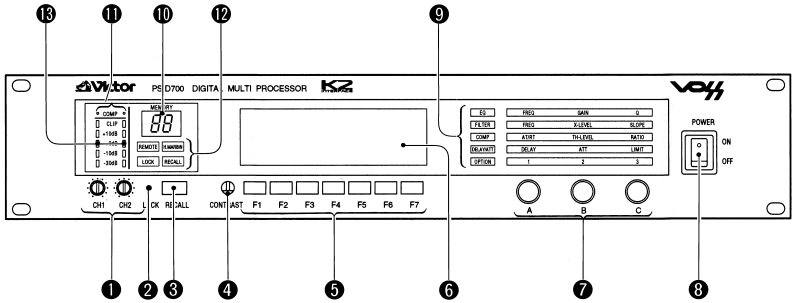
スペクトラムアナライザ機能を使用するときには INPUT CH2 に入力を入れてお使いください。

接続例6 モード設定：モード5

イコライザー + スイッチ



フロントパネルの名称と働き



❶「**CH1, CH2**」入力レベル調整ツマミ
CH1, CH2の入力レベルを調節します。
可変範囲は、＋6dB～－∞dBです。
CLIP LED（赤）が点灯しない範囲でご使用ください。

❷「**LOCK**（ロック）」スイッチ
フロントパネルの全操作キーの誤動作を防止することができます。LOCK表示下の穴へ細いピンなどにより、LOCKスイッチを押します。
LOCK表示が点灯しロック状態になりフロントパネルの全操作キーを受け付けなくなります。
ロック状態を解除する時は、もう一度LOCKスイッチを押します。LOCK表示が消灯し、フロントパネルの操作キーで設定を行うことができます。
※ LOCK中でもREMOTE操作およびパターンコントロール端子によるメモリーナンバーのチェンジは可能です。
※ REMOTE受信中も点灯し、LOCK状態になります。

❸「**RECALL**（リコール）」キー
このスイッチを押すことによって、現在設定中の一つ前の設定を呼び出すことができます。パラメータ設定中の音を比較することができます。

❹「**CONTRAST**（コントラスト）」調節ボリューム
ディスプレイ上の文字が見やすいように調節します。

❺ ファンクションキー「**F1～F7**」
ディスプレイ下部に表示される機能に対応し、押すと実行します。

❻ ディスプレイ
ファンクションキー（F1～F7）の機能、現在呼び出されているメモリー番号のタイトルや、各機能の設定値、メッセージ等を表示します。

❼「**A～C**」エンコーダ
各機能のパラメータの設定を行うためのものです。

ご注意
設定の際に接点間でエンコーダを止めると、誤動作の原因となる場合があります。
かならず確実に接点でエンコーダを止めるようにしてください。

❽「**POWER**（パワー）」電源スイッチ
スイッチをONにした直後の数秒間は、電源投入時のノイズを避けるため、出力信号がカットされます。
※ メモリーバックアップにより、電源を入れると電源を切る前の状態を再現します。
※ 本機は電源を切った状態で、約3ヵ月間メモリーのデータを保持しています。

❾「**LED**（エルイーディー）」インジケータ1
ファンクションキーで選択した機能のLEDが点灯しエンコーダに割り当てられた機能を示します。
この時、点灯したLEDに表示されたパラメータをエンコーダで設定できます。

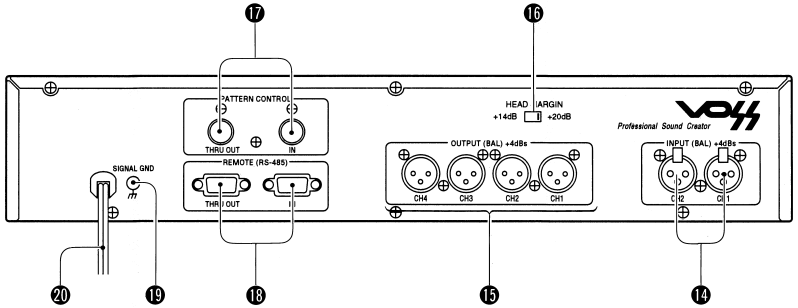
❿「**MEMORY**（メモリー）」メモリーナンバーディスプレイ
現在呼び出されているメモリーナンバーを表示します。

⓫「**COMP**（コンプ）」動作インジケータ
コンプレッサが動作したときにCOMP LED（赤）が点灯します。

⓬「**LED**（エルイーディー）」インジケータ2
現在の状態のLEDが点灯します。

⓭ レベルメータ「**LED**（エルイーディー）」
入力端子の入力信号レベルを表示します。
CLIP LED（赤）が点灯するときは、入力信号が過大であることを意味しますので、❶の入力レベル調節ツマミで調節してください。
※ 0dB＝＋4dBsを示します。

リアパネルの名称と働き



⓮「**INPUT**（インプット）」入力端子（CH1，2）
＋4dBs/10KΩ電子平衡（XLR-3-31相当）

⓯「**OUTPUT**（アウトプット）」出力端子（CH1～4）
＋4dBs/適合負荷インピーダンス600Ω以上電子平衡（XLR-3-32相当）

⓰「**HEAD**（ヘッド） **MARGIN**（マージン）」スイッチ
定格入出力レベル（＋4dBs）に対して信号がクリップするまでの余裕度（ヘッドマージン）を切換えるスイッチです。＋20dB側に設定した場合、最大入出力レベルが＋24dBsになります。
＋14dB側にした場合、最大入出力レベルが＋18dBsになります。本機からの残留ノイズが気になるときは、＋14dB側にしてください。
※ヘッドマージンスイッチは電源スイッチを切った状態で切り換えてください。

⓱「**PATTERN**（パターン） **CONTROL**（コントロール）」パターンコントロール端子（DIN-8P）
外部よりパターンコントロールしたいとき、任意のメモリーナンバーを呼び出すための端子です。

⓲「**REMOTE**（リモート）」リモート端子
RS-485準拠（DSUB-9P）
VOSS-D-NETで通信を行うための端子です。

⓳「**SIGNAL**（シグナル） **GND**（グランド）」端子
接続する機器のシグナルグランド接続します。
安全アースではありません。

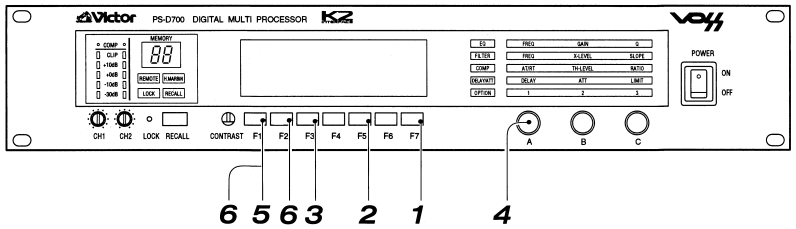
⓴ 電源コード
本機はAC100Vの電源電圧でご使用ください。

「**LED**」インジケータ1の説明

表　示	説　　明
FREQ	周波数を示します。
GAIN	ゲインを示します。
Q	ピーキング型イコライザーの鋭さを示します。Qが大きい程、鋭くなります。
X-LEVEL	フィルターのクロスオーバー周波数でのレベルを示します。
SLOPE	フィルターの傾きを示します。
AT/RT	コンプレッサーのアタックタイム（AT）、リリースタイム（RT）を示します。
TH-LEVEL	コンプレッサーの動作点のレベル（スレッショルドレベル）を示します。
RATIO	コンプレッサーの入出力レベル比（抑圧比又は圧縮比）を示します。
DELAY	遅延時間を示します。
ATT	減衰量を示します。
LIMIT	リミッターの動作点のレベル（スレッショルドレベル）を示します。

操作のしかた1

動作モードの設定



1 MENU(F7)キーを押します。
ファクションキーの機能が変わり、表示されます。

2 UTLTY(F5)キーを押します。
UTLITYの画面に変わります。

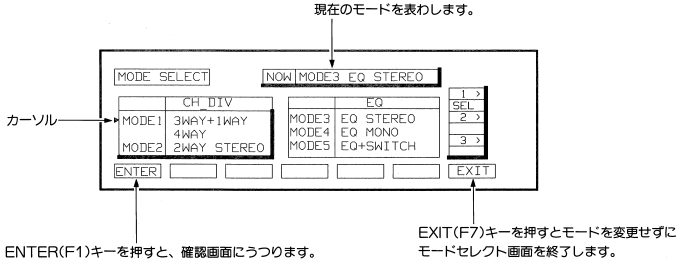
3 MODE(F3)キーを押します。
MODE SELECT 画面に変わります。

4 Aのエンコーダを左右にゆっくり回し、選択する動作モードに▶印を合わせます。

5 ENTER(F1)キーを押します。

6 YES(F1)キーを押すと、動作モードが確定し、選択します。
NO(F2)キーを押すと、手順 **4** にもどります。
途中で中止するときはEXIT(F7)キーを押します。

モードセレクト画面



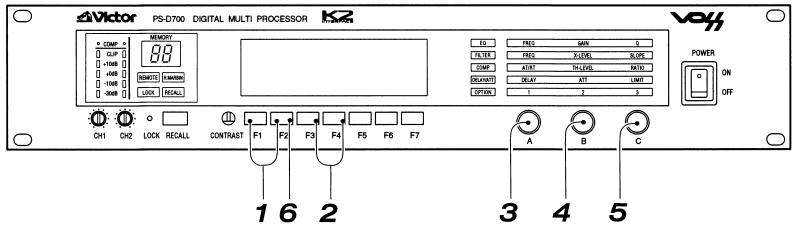
ご注意
モードを切替えるときは、必ず接続されたパワーアンプ等の電源を切ってから行なってください。切替時のノイズによりスピーカーとパワーアンプを破損するおそれがあります。

※モード設定を変更すると、全てのデーターがクリアーされます。かならず設定したパラメータをメモ等に書き写しておいてください。
（例．パラメータ値、タイトル名、etc）

グラフィックイコライザーのつかいかた

〔音質調整及び音場補正などにお使いください。〕

〔設定例〕CH1　F=8000 Hz，G=11dB，Q=4.5　LINK ON



1 GEQ（モード1，2，5のとき F1／モード3のとき F2）キーを押します。

2 CH1(F3)キーを押し、CHを1CHにします。

3 Aのエンコーダを回し、fが8000Hzになるようにします。

4 Bのエンコーダを回し、Gが+11dBになるようにします。

5 Cのエンコーダを回し、Qが4.5になるようにします。

6 LINK(F2)キーを押し、ONにします。
途中で中止するときはEXIT(F7)キーを押します。

リンクのしかた

LINK(F2)キーを押すと、CH1の画面で設定したパラメータと同じパラメータにCH2が設定されます。
CH1とCH2を同じ設定で同時に設定するときにつかいます。※LINK ONのときはCH1、CH2、COPYキーのファンクション表示が表示されません。
もういちどLINK(F2)キーを押すと、元にもどります。

ご注意
Q値は、一定であり、Q値を変化させると全素子共通で変化します。

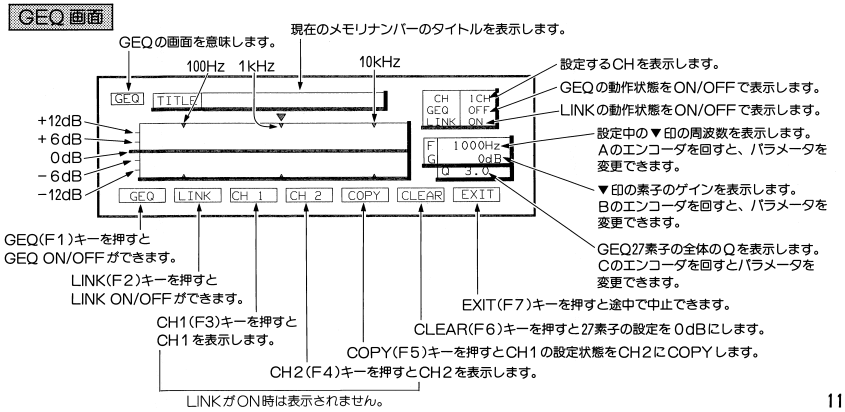
コピーのしかた

COPY(F5)キーを押すと、CH1の設定がCH2にCOPYされ、同じ設定になります。
※COPY(F5)キーは、LINKがOFFのときにしか使用できません。

クリアのしかた

CLEAR(F6)キーを押すと、現在設定されているすべての素子のゲインのパラメータ値が＝0dBに設定されます。

GEQ画面

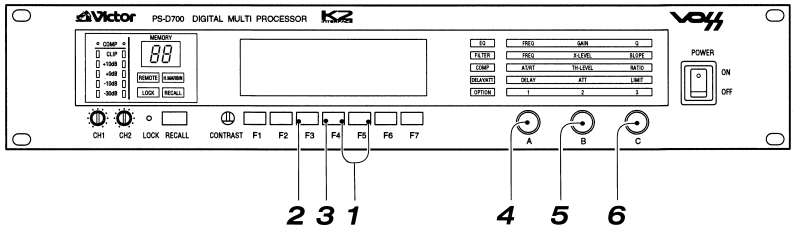


操作のしかた 1

パラメトリックイコライザーのつかいかた

〔スピーカーの周波数特性の補正などにお使いください。〕

〔設定例〕PEQ，ON，OUT3，EQ-P　EQ2，FREQ＝3600Hz，GAIN＝＋4dB，Q12



1 PEQ（モード1・2のとき F5／モード5のとき F4）キーを押します。

2 OUT＜(F2)キー、OUT＞(F3)キーを押して、OUTが3になるようにします。

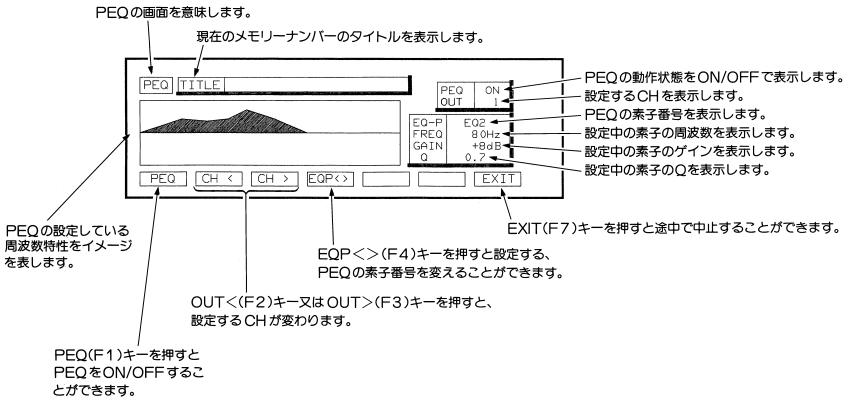
3 EQP＜＞(F4)キーを押し、EQ-PがEQ2になるようにします。

4 Aのエンコーダを回し、FREQが3600Hzになるようにします。

5 Bのエンコーダを回し、GAINが＋4dBになるようにします。

6 Cのエンコーダを回し、Qが12になるようにします。

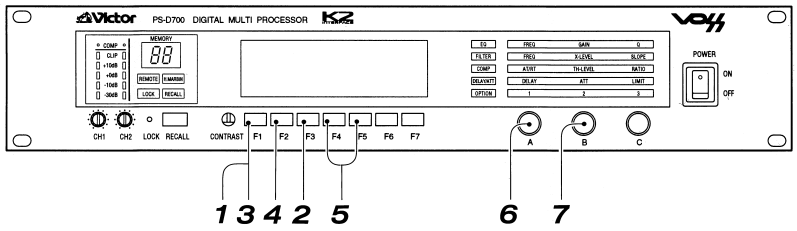
PEQ画面（OUTPUT用PEQの例）



ノッチフィルターのつかいかた

(モード3，4のみ)〔ハウリングやハム・ノイズを取るときにお使いください。〕

〔設定例〕CH1，NOTCH　ON，LINK　ON，NOTCH 5，F＝50Hz，G＝－13dB



1 NOTCH(F1)キーを押します。
NOTCH画面になります。

2 CH＜＞(F3)キーを押し、CHが1CHになるようにします。(モード3のみ)

3 NOTCH(F1)キーを押し、NOTCHがONになるようにします。

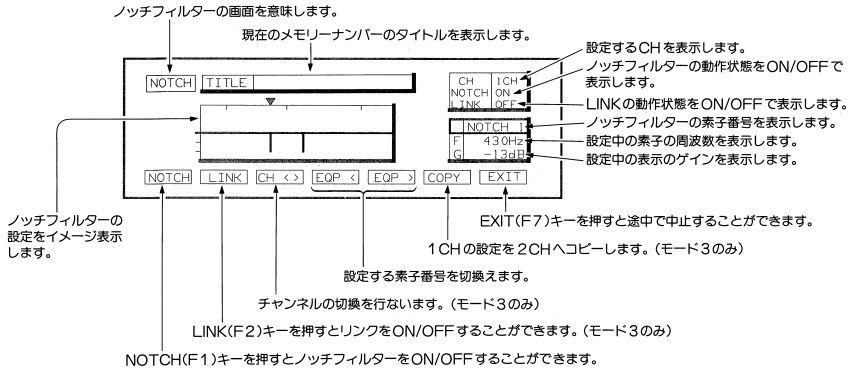
4 LINK(F2)キーを押し、LINKがONになるようにします。(モード3のみ)

5 EQP＜(F4)キー又は、EQP＞(F5)キーを押し、素子番号をNOTCH5にします。
(ノッチフィルターは、全6素子です。)

6 Aのエンコーダを回し、Fが50Hzになるようにします。

7 Bのエンコーダを回し、Gが－13dBになるようにします。

ノッチフィルター画面



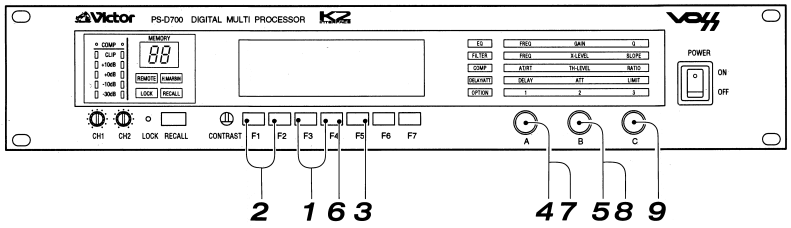
※ LINK ONで CH<> と COPY がなくなります。
※ モード4では LINK と CH<> と COPY がなくなります。

操作のしかた 1

フィルターのつかいかた 1

（モード2,5のとき）〔スピーカーユニットの補正などにお使いください。〕

〔設定例〕OUT４，⇒，F＝100Hz，G＝＋9dB，⌒，F＝500Hz，SLP＝18，X-P＝X-6



1 FIL（モード2のとき F4／モード5のとき F3）キーを押します。　FIL 画面になります。

2 CH＜(F1)キー又は、CH＜(F2)キーを押し、OUT４になるようにします。

3 ／￣(F3)キーを押し、TYPE(F5)キーで(F3)キーの表示が ⇒ になるのを確認します。

4 Aのエンコーダを回し、▶印側のFが100Hzになるようにします。

5 Bのエンコーダを回し、▶印側のGが＋9dBになるようにします。

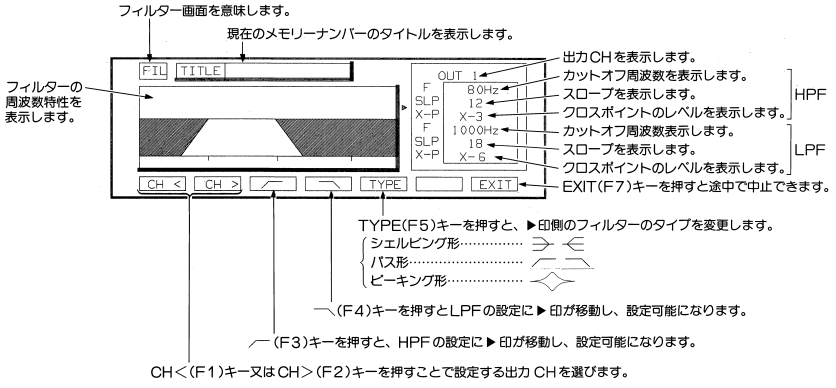
6 ＼_(F4)キーを押し、▶印を、移動させます。

7 Aのエンコーダを回し、▶印刷のFが500Hzになるようにします。

8 Bのエンコーダを回し、▶印側のX-PがX-6になるようにします。

9 Cのエンコーダを回し、▶印側のSLPが18になるようにします。

フィルター画面

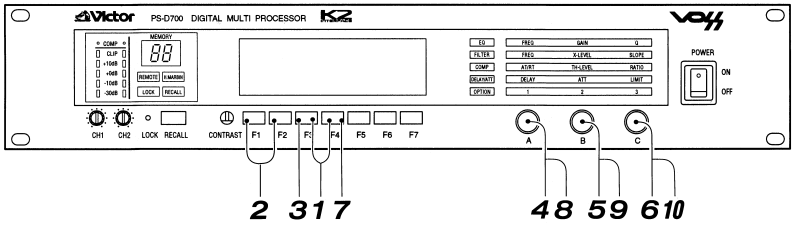


※ LCD画面のグラフィック表示は、疑似的な表示です。実際の周波数特性と若干異なる場合があります。

フィルターのつかいかた 2

（モード1のとき）〔マルチドライブスピーカーのクロスオーバー周波数を決めるときなどにお使いください。〕

〔設定例〕OUT３，／￣，F＝250Hz，X-P＝X-６，SLP＝24，＼_，F＝2500Hz，SLP＝６，X-P＝X-３



1 ／￣ ＼_(F４)キーを押します。
FIL画面になります。

2 CH＜(F１)キー又は、CH＞(F２)キーを押し、OUT３になるようにします。

3 ／￣(F３)キーを押し、▶印を ／￣ 側に移動させます。

4 Aのエンコーダを回し、▶印側のFが250Hzになるようにします。

5 Bのエンコーダを回し、▶印側のX-PがX-６になるようにします。

6 Cのエンコーダを回し、▶印側のSLPが24になるようにします。

7 ＼_(F４)キーを押し、▶印を ＼_ 側に移動させます。

8 Aのエンコーダを回し、▶印側のFが2500Hzになるようにします。

9 Bのエンコーダを回し、▶印側のX-PがX-３になるようにします。

10 Cのエンコーダを回し、▶印側のSLPが６になるようにします。

DISP(F5)の使いかた

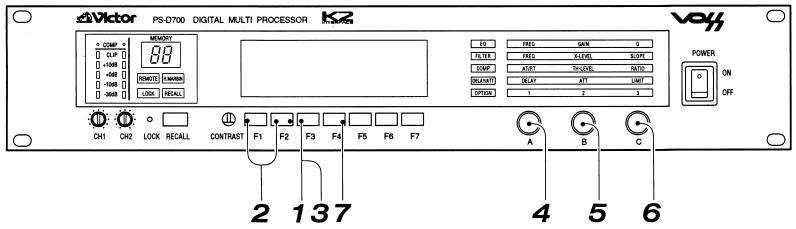
DISP(F５)キーを押すと、単独CHの表示と全CHの表示を切換える事が出来ます。各帯域のマルチドライブスピーカーのクロスオーバー周波数を設定するときに、お使いください。

操作のしかた 1

フィルターのつかいかた 3

（モード3，4のとき）〔マイクの吹かれ音や不用な低音や高音からスピーカーを保護するときにお使いください。〕

〔設定例〕／，F＝32Hz，X-P＝X-3，SLP＝24，＼，F＝12500Hz，X-3，SLP＝6



1 ／ ＼（F３）キーを押します。
FIL 画面になります。

2 モード３の時は、CH１（F１）キー又は CH２（F２）キーを押して、設定する CH を選択します。
モード４の時は、手順 **3** にすすむ。

3 ／（F３）キーを押し、▶印を ／ 側に移動させます。

4 Aのエンコーダを回し、▶印側のFが32Hzになるようにします。

5 Bのエンコーダを回し、▶印側の X-P が X-３になるようにします。

6 Cのエンコーダを回し、▶印側の SLP が24になるようにします。

7 ＼（F４）キーを押し、▶印を ＼ 側に移動させます。

8 Aのエンコーダを回し、▶印側のFが12500Hzになるようにします。

9 Bのエンコーダを回し、▶印側のX-Pが X-３ になるようにします。

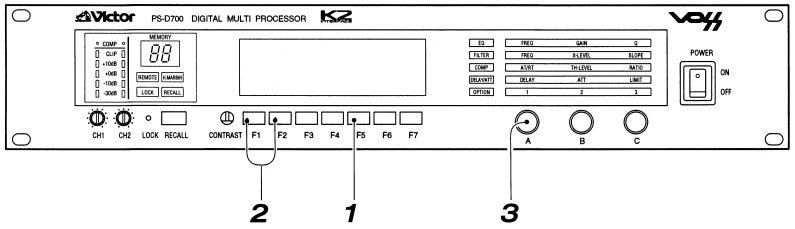
10 Cのエンコーダを回し、▶印側の SLP が６になるようにします。

※ このモードのときは、TYPE が使えません。
※ モード４では、CH 切換ができません。

ディレイのつかいかた 1

（モード３，４，５のとき）〔音像定位システムなどでお使いください。〕

〔設定例〕OUT３　DELAY＝135ms



1 D/A/L（F５）キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/ϕ の画面になります。

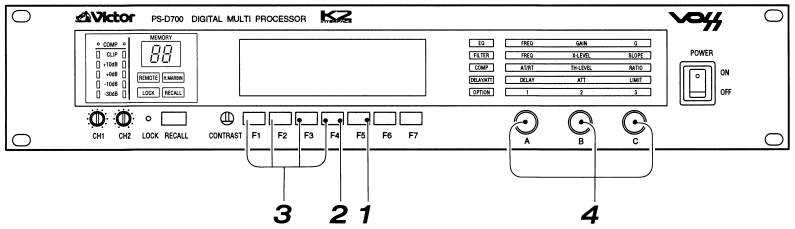
2 UP（F１）キー又は DOWN（F２）キーを押し、▶印を OUT３の位置になるようにする。

3 Aのエンコーダを回し、DELAY が135ms になるようにします。
途中で中止するときは EXIT（F７）キーを押します。

ディレイのつかいかた 2

（モード３，４，５のとき）〔ディレイだけを調整するときにお使いください。〕

〔設定例〕OUT３　DELAY＝135ms



1 D/A/L（F５）キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/ϕ の画面になります。

2 DELAY（F４）キーを押します。
DELAY 画面になります。

3 OUT１（F１）キー、OUT２（F２）キー、OUT３（F３）キー、OUT４（F４）キーを押し、調節する。出力チャンネルを決定します。

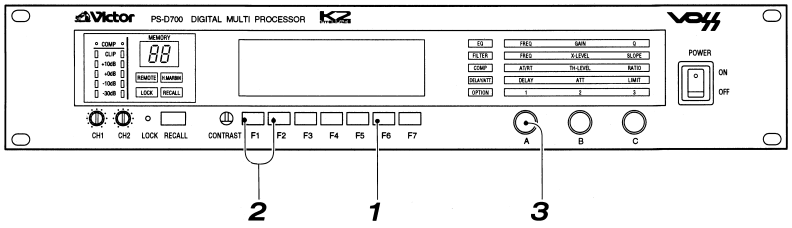
4 Aのエンコーダ［X100ms］、Bのエンコーダ［X10ms］、Cのエンコーダ［X1ms］を回し、パラメータを設定します。
途中で中止するときは EXIT（F７）キーを押します。

操作のしかた1

ディレイのつかいかた 3

（モード1，2のとき）［マルチドライブスピーカーのユニット位置による位相ずれを補正するときなどにお使いください。］

〔設定例〕OUT4　DELAY=312.0μs



1 D/A/L(F6)キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/φ 画面になります。

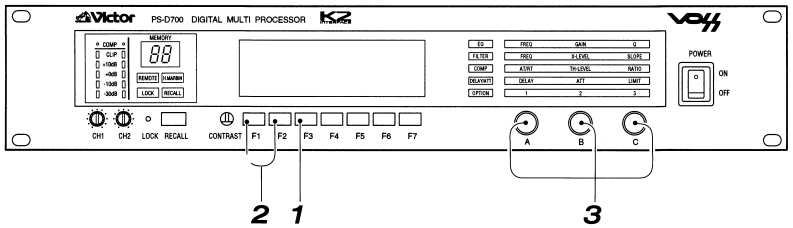
2 UP(F1)キー又はDOWN(F2)キーを押し、▶印をOUT4の左側に移動します。

3 Aのエンコーダを回し、DELAYが312.0μsになるようにします。
途中で中止するときはEXIT(F7)キーを押します。

ディレイのつかいかた 4

（モード1，2のとき）［スピーカーを複数使用した場合のスピーカー位相ずれを補正するときにお使いください。］

〔設定例〕CH2，DELAY=30ms



1 L-DLY(F3)キーを押します。
DELAY 画面になります。

2 CH2(F2)を押し、▶印をCH2の左側に移動します。

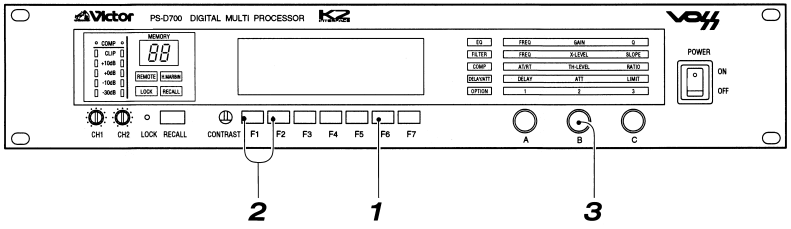
3 Aのエンコーダ[X100ms]、Bのエンコーダ[X10ms]、Cのエンコーダ[X1ms]を回し、DELAYが30msになるようにします。途中で中止するときはEXIT(F7)キーを押します。

※ MODE1の4WAY時には、CH2は使用できません。

アッテネータのつかいかた 1

（出力の音量を調節するときなどにお使いください。）

〔設定例〕OUT3，ATT 20dB



1 D/A/L（モード1、2 のとき F6 / モード3、4、5 のとき F5）キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/φ 画面(モード1，2，5時)になります。
又は、DELAY/ATT/LIMIT 画面(モード3，4時)になります。

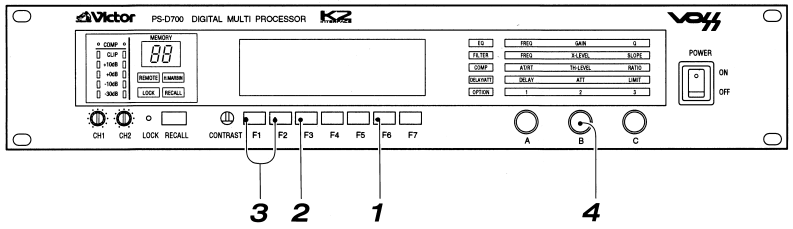
2 UP(F1)キー又はDOWN(F2)キーを押し、OUT3の左側に▶印が移動するようにします。

3 Bのエンコーダを回し、ATTが20dBになるようにします。
途中で中止するときは、EXIT(F7)キーを押します。

アッテネータのつかいかた 2

［入力信号がグラフィックイコライザーでゲインを上げたときにクリップするときなどに調節してお使いください。］

〔設定例〕INPUT2，ATT 13dB



1 D/A/L(F6)キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/φ 画面(モード1，2，5時)になります。
又、DELAY/ATT/LIMIT 画面(モード3，4時)になります。

2 IN-AT(F3)キーを押します。
INPUT ATT 画面になります。

3 IN2(F2)キーを押し、▶印がINPUT2ATTの側に移動します。(モード3のみ)

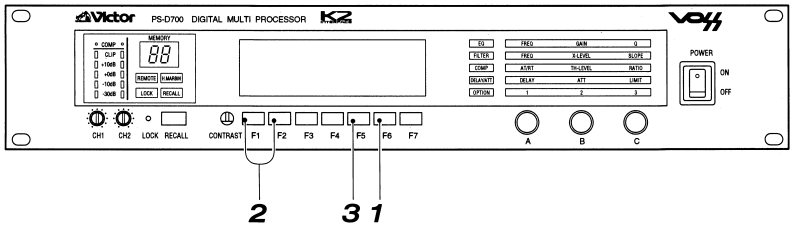
4 Aのエンコーダを回し、INPUT2 ATTが13dBになるようにします。(モード3のみ)
モード4のときは、INPUT1 ATTのみの表示になります。
途中で中止するときはEXIT(F7)キーを押します。

操作のしかた 1

位相切替のつかいかた

（モード1，2，5のとき）（出力信号の位相を正相又は逆相にするときにお使いください。）

〔設定例〕OUT４ϕREV

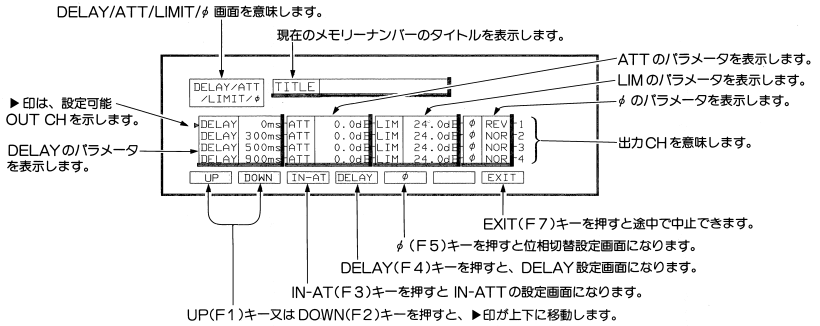


1 D/A/L（モード1,2,5のとき F6）（モード3,4,5のとき F5）キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/ϕ 画面になります。

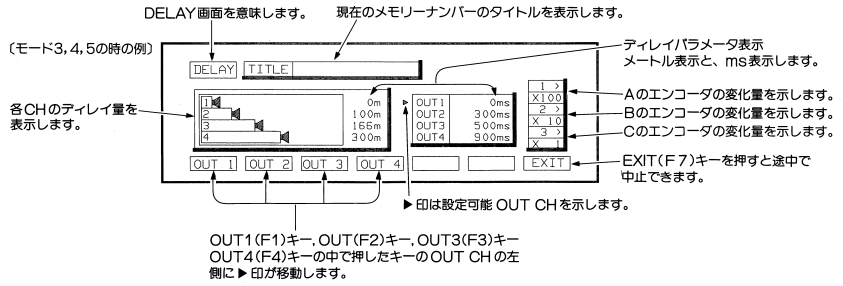
2 UP(F１)キー又は DOWN(F２)キーを押し、▶印がOUT４の左側に移動させます。

3 ϕ（F５)キーを押し、ϕ が REV になるようにします。
途中で中止するときは、EXIT(F７)キーを押します。

DELAY/ATT LIMIT/ϕ画面



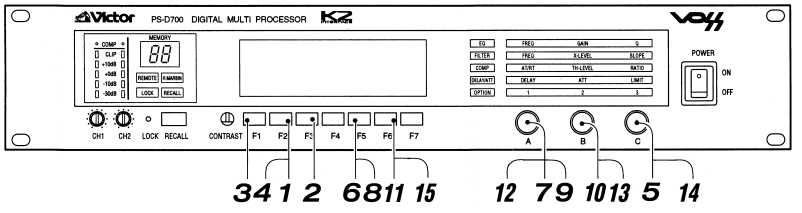
ディレイ画面



コンプレッサーのつかいかた

〔入力信号の系統に対して過大入力からスピーカーを保護するときにお使いください。〕

〔設定例〕CH１，COMP ON，LINK OFF，RATIO=1/2.0，ATACK=32ms，RELES=2000ms，TH-LEVEL =4.0dB，サイドチェーンイコライザ　F=3200Hz　G=+12dB　Q=0.7



※スレッショルドレベルの設定は、リミッター機能のスレッショルドレベルより低く設定すると、より効果的に使うことができます。
※スレッショルドレベルの０dB表示は０dBsを示します。

1 COMP(F２)キーを押します。
COMP 画面になります。

2 CH<>(F３)キーを押し、CH表示が CH１になるようにします。

3 COMP(F１)キーを押し、COMP 表示が ON になるようにします。

4 LINK(F２)キーを押し、LINK 表示が OFF になるようにします。

5 Cのエンコーダを回し、RATIO 表示が1/2 になるようにします。

6 TIME(F５)キーを押し、>印を ATACK の左側に移動します。

7 Aのエンコーダを回し、ATACK が32ms になるようにします。

8 TIME(F５)キーを押し、>印を RELES の左側に移動します。

9 Aのエンコーダを回し、RELES が 2000ms になるようにします。

10 Bのエンコーダを回し、TH-LEVEL が 4.0dB になるようにします。

11 >S-EQ(F6)キーを押し、サイドチェーンイコライザ設定可能状態にします。

12 Aのエンコーダを回し、Fが 3200Hz になるようにします。

13 Bのエンコーダを回し、Gが+12dB になるようにします。

14 Cのエンコーダを回し、Qが 0.7 になるようにします。

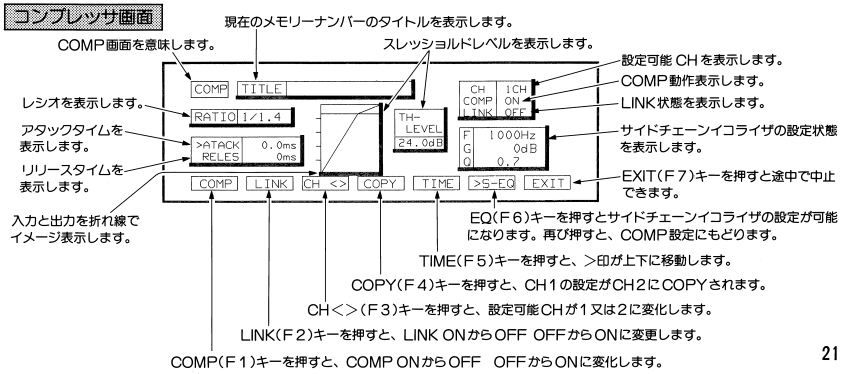
15 <S-EQ(F6)キーを押し、コンプレッサ設定可能状態にします。
途中で中止するときは、EXIT(F７)キーを押します。

一口メモ　サイドチェーンイコライザとは？

コンプレッサの制御する信号系統にイコライザが入っており、このイコライザをサイドチェーンイコライザと呼びます。
このサイドチェーンイコライザを変化させることによりスレッショルドレベルを超える周波数成分の信号だけにコンプレッサを動作させることができます。



コンプレッサ画面

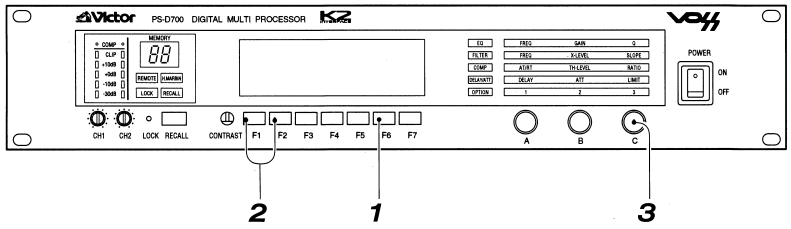


操作のしかた 1

リミッターのつかいかた

〔過大入力からスピーカーを保護するときにお使いください。〕

〔設定例〕OUT３，LIM=10.0dB



※スレッショルドの0dB表示は、0dBsを示します。

1 D/A/L（モード1、2 のとき F6／モード3、4、5 のとき F5）キーを押します。
DELAY/ATT/LIMIT/♯ 画面になります。

2 UP(F1)キー又は DOWN(F2)キーを押し、▶印を OUT３の左側に移動します。

3 Cのエンコーダを回し、LIM の値が10.0dB になるようにします。

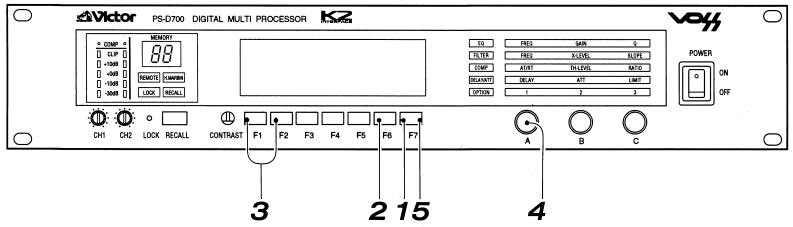
一口メモ

本機のリミッターは、過大入力によるスピーカーの破壊を防ぐことを目的としたリミッタです。リミッタ動作時の音質が変化の少ないソフトニーリミッターと呼ばれているリミッターを採用しました。

スイッチのつかいかた

（モード５のみ）〔入力を任意の出力に出すときなどにお使いください。〕

〔設定例〕 IN1 ┬ OUT1
　　└ OUT2
MIX ── OUT3
IN2 ── OUT4



1 MENU(F７)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変化します。

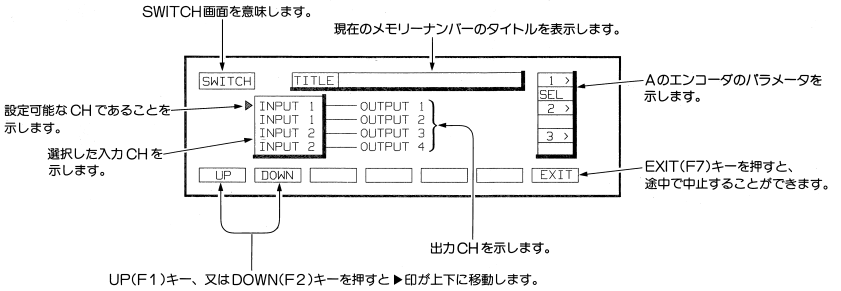
2 SW(F６)キーを押します。
SWITCH 画面になります。

3 UP(F１)キー又は DOWN(F２)キーを押し、▶印を設定する出力チャンネルに移動させます。

4 Aのエンコーダを回し、INPUT1，MIX，INPUT２の中から選択します。
他のチャンネルの設定を行なうときは、手順 **3** にもどります。

5 途中で中止するときは、EXIT(F７)キーを押します。

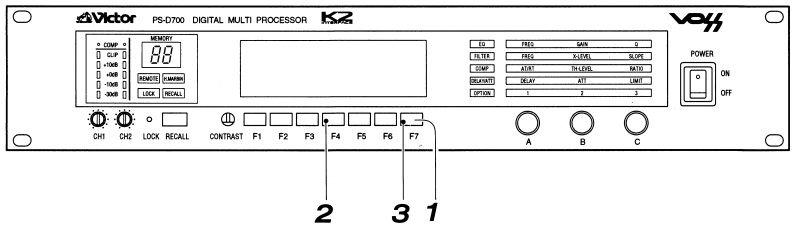
スイッチ画面



操作のしかた 1

出力レベルメーターのつかいかた

〔出力レベルを確認するときにお使いください。〕



1 MENU(F７)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変化します。

2 OUT(F４)キーを押します。
出力レベル表示画面になります。

3 EXIT(F７)キーを押します。
途中で中止できます。

出力レベル画面



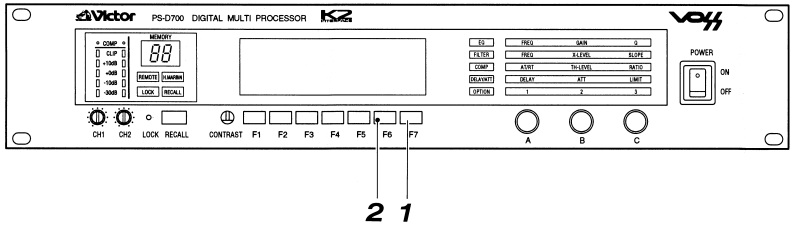
ご注意

CLIP に出力レベルが達するときは、入力レベルを下げてお使いください。

スペクトラム アナライザのつかいかた

ご注意

スペクトラム　アナライザは、モード４ において
INPUT２ の信号のみ有効となります。



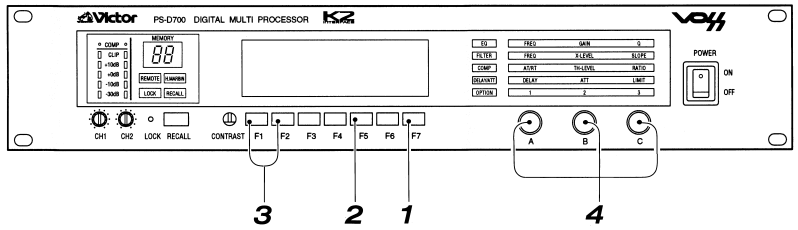
1 モード４において、MENU(F７)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変化します。

2 SPANA(F６)キーを押します。
スペクトラムアナライザ画面になります。

3 EXIT(F７)キーを押すと、途中で中止できます。

ユーティリティのつかいかた

〔通信の設定や、LCDバックライト消灯時間、デジタルフィルター特性、イコライザーの選択状態を変更するときにお使いください。〕



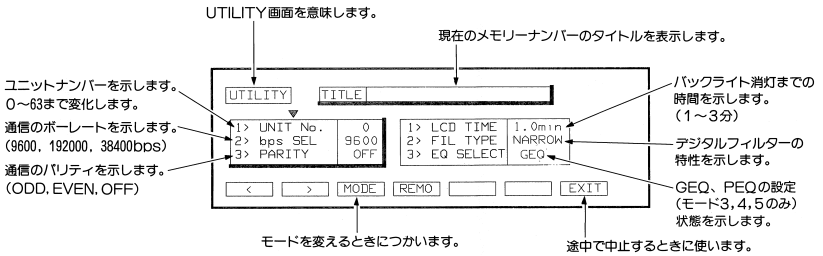
1 MENU(F７)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変化します。

2 UTLTY(F５)キーを押します。
UTLTY 画面になります。

3 <(F１)キー又は>(F２)キーを押し、▼印を設定する項目の上方に移動します。

4 A，B，Cのエンコーダを回し、設定します。
EXIT(F７)キーを押すと、途中で中止できます。

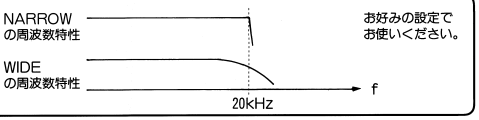
ユーティリティ画面



※バックライト消灯時間は、初期画面での消灯時間をあらわします。
設定画面では、約３分すると初期画面にもどります。

デジタルフィルター特性

ーご注意ー
音質が変化しますので２台以上お使いになる際には設定を同じにしてください。



ご注意

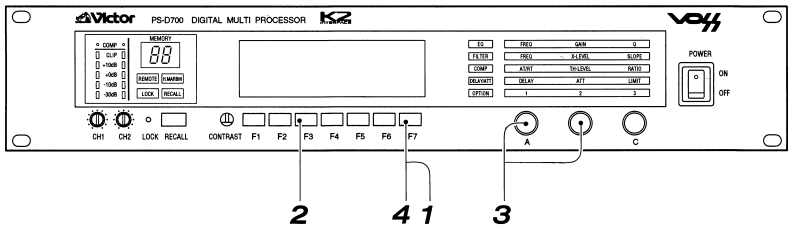
スイッチ画面、ユーティリティ画面、メモリーロードセーブ画面、アウトプット画面、スペクトラムアナライザ画面、タイトル入力画面は時間が経過しても初期画面にもどりません。
※ユーティリティ設定は、通信を使って変更できません。

操作のしかた1

タイトルのつかいかた

メモリー内に保存されているデータ(メモリーナンバー1～メモリーナンバー16)にタイトルをつけることができます。(最大16文字まで)

メモリー内に保存されているデータ(メモリーナンバー1～メモリーナンバー16)にタイトルをつけることができます。
(最大16文字まで)



1 MENU(F7)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変化します。

2 TITLE(F3)キーを押します。
タイトル画面になります。

3 Aのエンコーダーで文字位置を指定し、Bのエンコーダーで文字を選択します。

4 EXIT(F7)キーを押すとタイトルが確定され、手順**1**にもどります。

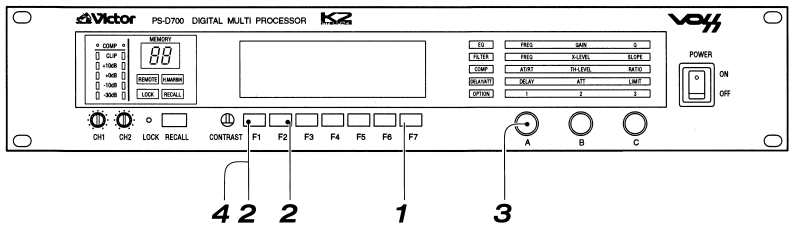
●表示される文字一覧

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_	`	a	b	c	d	e	f	g	h
i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{	|
}	→	←		。	「	」	、	・	ヲ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ	ー
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ
ル	レ	ロ	ワ	ン	゛	゜		!	"	#	$	%	&	'	(	)	*	+	,
−	.	／	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@

※表示される文字一覧のならびは、実際に選択する順番と異なります。
※通信制御によるメモリーデータのコピー等には、タイトルも同時にコピーされます。
※設定されたタイトルは、メモリーセーブして保存してください。
保存しない場合、メモリーを変えたときに消えます。ご注意ください。

メモリー保存・呼び出しのしかた

1～16のメモリーナンバーを利用し、パラメータの保存および呼び出しが行えます。
SAVEされたパラメータは、次のSAVEが行なわれるまで保存されます。



メモリー保存のしかた

1 MENU(F7)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変わります。

2 SAVE(F2)キーを押します。
MEMORY SAVE 画面に変わります。

3 Aのエンコーダーを回し、記憶させるメモリーナンバーを選択します。

4 ENTER(F1)キーを押すと、SAVE が実行されます。
中止する場合は、EXIT(F7)キーを押します。

メモリー呼び出しのしかた

1 MENU(F7)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変わります。

2 LOAD(F1)キーを押します。
MEMORY LOAD 画面に変わります。

3 Aのエンコーダーを回し、呼び出したいメモリーナンバーを選択します。

4 途中で、ENTER(F1)キーを押すと、LOAD が実行されます。
中止する場合は EXIT(F7)キーを押します。

操作のしかた 1

リコールのつかいかた

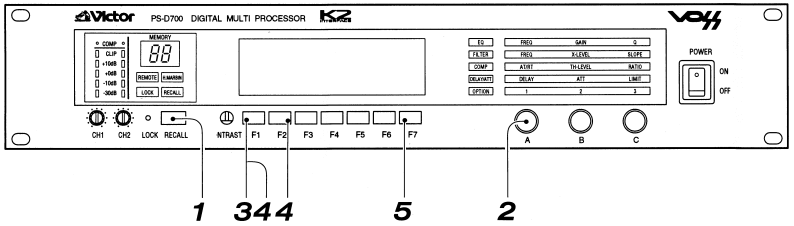
リコールとは

現在調整中の設定とメモリーに記憶されているデータとを一時的に比較する機能です。

リコールの種類

本機のリコール機能には、次の２つの比較のしかたが用意されています。
１．全パラメータの比較を、任意のメモリーナンバーに対して行う。
２．特定のパラメータの比較を、現在のメモリーナンバーに対して行う。

１．全パラメータの比較を行う場合



1 初期画面において、リコールキーを押します。
リコールランプが点灯し、リコール画面に変わります。

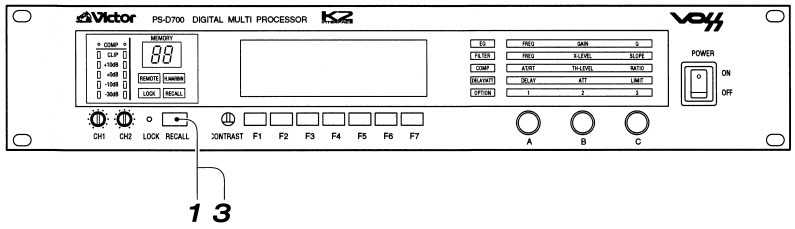
2 Aのエンコーダーを回し、メモリーナンバーを選択します。

3 ENTER(Ｆ１)キーを押します。

4 ファンクションキーの機能が切り換わり
「NOW」(Ｆ１)キーを押すと、現在のパラメータに
「CALL」(Ｆ２)キーを押すと、選択したメモリーナンバーのパラメータに変わります。

5 EXIT(Ｆ７)キーを押すと終了します。

２．特定のパラメータの比較を行う場合



1 比較したいパラメータの設定画面において、リコールキーを押します。

2 リコールランプが点灯し、現在のメモリーナンバーのパラメータ（画面内で調整可能なパラメータのみ）が呼び出されます。

3 もう一度、リコールキーを押すと、リコールを終了します。
●リコール動作中は、リコールキー以外のキーは受け付けません。

設定可能パラメータ

- グラフィックイコライザー
- パラメトリックイコライザー
- コンプレッサー
- ノッチフィルター
- フィルター
- アッテネーター
- ディレイ
- リミッター
- 位相切替

※ この場合、設定データーのみの変化で表示は変化しません。

通信でできること

VOSS-D-NET とは

VOSS-D-NET とは「VOSS DIGITAL NETWORK」の略でパラメーター情報、コントロール情報などの音響器間に必要な情報のやりとりをするための信号フォーマットです。

VOSS-D-NET でできること

本機は REMOTE IN, OUT 端子を装備しており、もう一台の PS-D700 や、コンピューターを接続して、次のようなことが可能です。

1．リンク機能（パラメータ）

もう一台の PS-D700 を接続して、本機（送信側）のパラメータの値を変更すると自動的に相手（受信側）の PS-D700 のパラメータの値も同様に変更されます。
（各機能の ON/OFF, LINK ON/OFF 等の変更はできません。）

2．リンク機能（メモリーの呼び出し、保存）

本機と受信側ユニットのメモリーナンバーの呼び出し/書き込みを連動して、そろえることができます。
メモリーデータの送受信はありません。

3．メモリーデータ(実行中)のコピー(送信)

本機（送信側）の全メモリーデータ（タイトルも含みます。）を指定した受信側ユニットへコピーします。

4．メモリーデータ(実行中)のコピー(受信)

本機で指定した受信側ユニットのメモリーデータ（タイトルも含みます）を本機へコピーします。

5．メモリーチェンジ機能

本機で、受信側に接続されたすべてのユニットのメモリーナンバーを一度に同時に変更できます。

6．コンピューターによる一括制御

外部コンピューターからデータを VOSS-D-NET プロトコルにて送受信することができます。一台のコンピューターで最大32台までの PS-D700 を一括制御できます。バッファーを通信ケーブルに付けると、最大63台まで制御することができます。

※詳しい事は、販売店又は営業所にご相談ください。

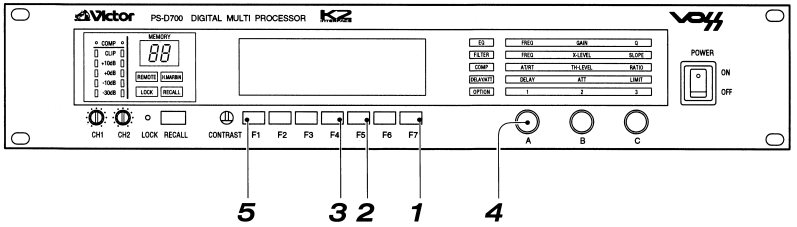
ご注意

- 通信を行なうときは、通信接続機器のボーレート、パリティを同じに設定して同一モードで行なってください。異なるときには、通信できない場合があります。
- 各機器のユニットナンバーは、重複することなく設定してください。
- パラメータのリンクを行う場合には、送信側の実行中データが受信側にコピーされます。

操作のしかた2

1．リンク機能(パラメータ)

〔通信により各機能ごとに本機と同じ設定にするときにお使いください。〕
※ 各パラメータの変更のみ可能です。



1 MENU(Ｆ７)キーを押します。
ファンクションキーの機能が変わります。

2 UTLTY(Ｆ５)キーを押します。
ユーティリティー画面に変わります。

3 REMOTE(Ｆ４)キーを押します。
リモート画面に変わります。

4 Ａのエンコーダーで通信相手のユニットナンバーを指定します。

5 LINK(Ｆ１)キーを押します。
相手側ユニットに通信スタートをかけます。

通信スタート成功の場合
LINK OKが表示され、REMOTE ランプが点灯し、リモート画面から抜けます。
以後、パラメータを調整する場合には、パラメータ変化と同時に送信が行なわれます。

通信スタート失敗の場合
REMOTE ランプが点灯せず、リモート画面から抜けます。
（REMOTE LINK ERR 又は MODE NUMBER ERR）

リンクをオフするには

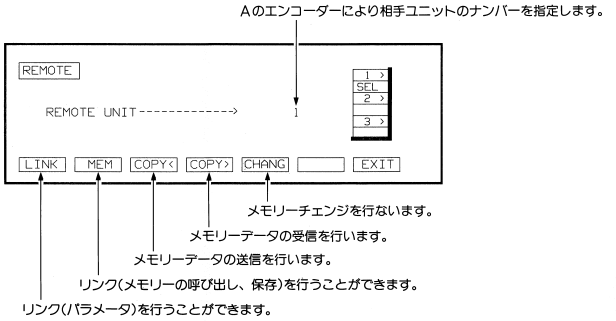
上記 **1～3** の手順の後、OFF(Ｆ５)キーを押します。
通信状態をストップし、リモート画面から抜けます。

ご注意

- ここでは、各機能にて操作できるパラメーターが限定されます。
  主に設定値の変更であり、機能の選択はできなくなります。
- 送信、受信ユニット間で通信で送受信しているので単独操作時より、動作スピードが遅くなります。
- REMOTE LINK ERR が表示されるときには、通信回線、ユニットの設定を点検してください。

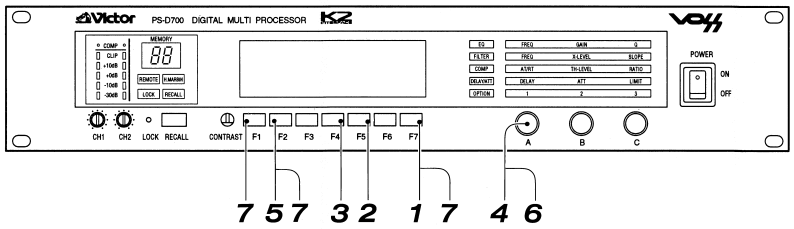
操作のしかた2

リモート画面



2. リンク機能(メモリーの呼び出し・保存)

〔送信側ユニットと同じメモリーナンバーのデーターを連動して呼び出し、保存するときにお使いください。〕



1 ～ **4** リンク機能(パラメータ)と同様

5 MEM(F2)キーを押します。

6 Aのエンコーダーによりメモリーナンバーを指定します。

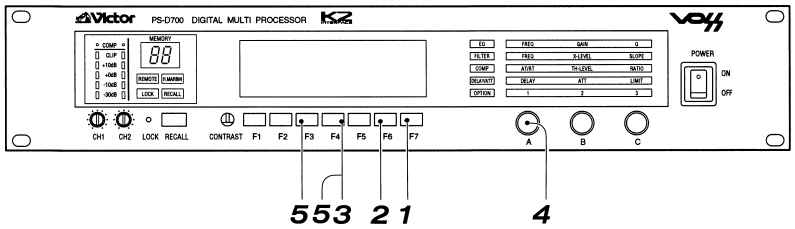
7 呼び出しを行う場合は、LOAD(F1)キーを、保存を行う場合にはSAVE(F2)キーを押します。
取り消し時はEXIT(F7)キーを押します。

3. メモリーデータのコピー(送信)

〔通信により、本機のメモリーデータを受信側ユニットへコピーするときにお使いください。〕

4. メモリーデータのコピー(受信)

〔通信により、受信側のユニットのメモリーデータを本機にコピーするときにお使いください。〕

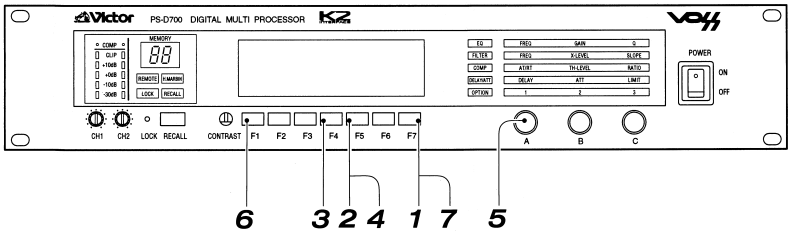


1 ～ **4** リンク機能と同様

5 送信を行う場合にはCOPY>(F3)キーを、受信を行う場合にはCOPY<(F4)キーを押します。

5. メモリーチェンジ機能

〔通信により、複数のユニットを同じタイミングでメモリーナンバーを変更するときにご使用ください。〕



1 ～ **3** リンク機能(パラメータ)と同様　　※この場合、ユニットナンバーは関係ありません。

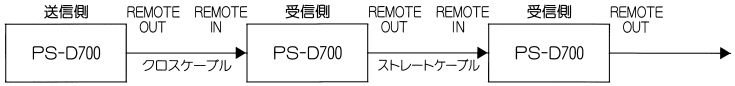
4 CHANG(F5)キーを押します。
メモリーナンバー入力表示になります。

5 Aのエンコーダを左右に回し、変更したいメモリーナンバーにします。

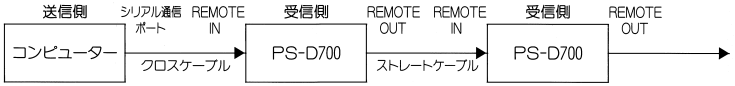
6 START(F1)キーを押すと、通信によって複数のユニットのメモリーナンバーが同時に変更されます。
途中で中止するときは、EXIT(F7)キーを押します。

6. 接続のしかた

●ユニットのみで通信を行う場合



●コンピュータでの制御を行う場合

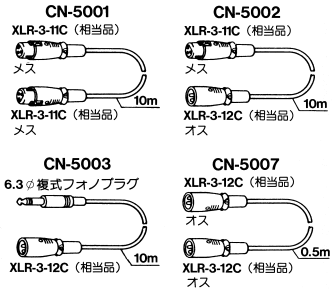


通信時のご注意

●REMOTE中に、電源の切断を行うと、誤動作の原因となりますので行わないでください。

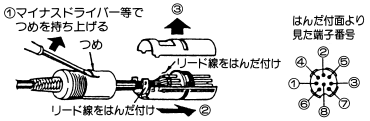
接続ケーブルについて

PA、レコーディング用接続ケーブルは使用目的に応じていろいろなケーブルが使われます。
当社では次のようなケーブルを用意しております。



●8P DINコネクタの接続方法

ビクター品番 QMC 0888-012（DIN Standard No. 45326 準拠）

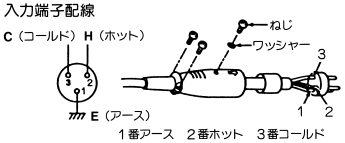


入力コネクタの配線は次のようにしてください。

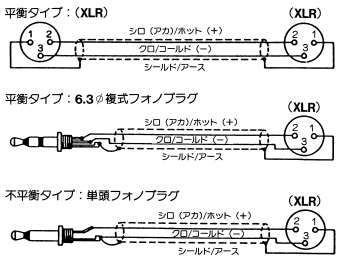
XLRタイプコネクタの場合
1番：アース
2番：ホット
3番：コールド

6.3φ複式フォノプラグの場合
スリーブ：アース
チップ：ホット
リング：コールド

入力端子配線



接続ケーブルを製作するときは下図を参考にしてください。



※本機の出力を不平衡入力の機器に接続するときは3番ピンをオープンにしてください。

パターンコントロール端子について

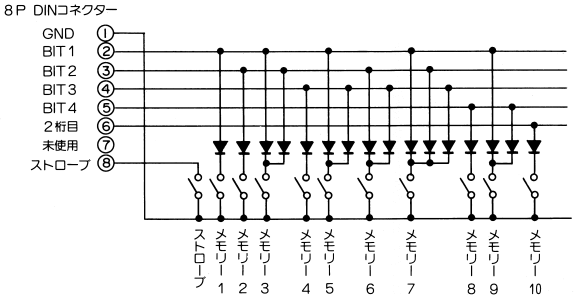
8PのDINコネクターで、パターンコントロールしたいとき、任意のメモリーナンバーを呼び出すための端子です。
1．下表により、呼び出したいメモリーナンバーに相当するピン番号を、GND（1番ピン）に接続する。
2．ストローブ（8番ピン）をGNDに1秒前後接続する。

ピン番号

メモリーNo ＼ ピン番号	6	5	4	3	2
1	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
2	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
3	OFF	OFF	OFF	ON	ON
4	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
5	OFF	OFF	ON	OFF	ON
6	OFF	OFF	ON	ON	OFF
7	OFF	OFF	ON	ON	ON
8	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
9	OFF	ON	OFF	OFF	ON
10	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
11	ON	OFF	OFF	OFF	ON
12	ON	OFF	OFF	ON	OFF
13	ON	OFF	OFF	ON	ON
14	ON	OFF	ON	OFF	OFF
15	ON	OFF	ON	OFF	ON
16	ON	OFF	ON	ON	OFF

※ピン番号（2～5）は、BCDコード（BIT1～BIT4）に対応しており、BCDコードを発生するロータリー式デジタルスイッチを使用できます。

接続例



リモート端子について

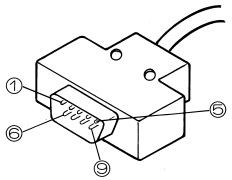
9PのDSUBコネクターで、RS-485に準拠したシリアル通信を行います。

※クロスケーブルは下図の通り、送信端子と受信端子をクロス接続したケーブルです。

※ストレートケーブルは同一のピン番号どうしを接続したケーブルです。

●ピン配置（クロスケーブル）

送信側機能	送信側ピン番号		受信側ピン番号	受信側機能
GND	1	→	1	GND
送信A⊖	2	→	8	受信A⊖
受信B⊕	3	→	7	送信B⊕
GND	4	→	4	GND
NC	5	→	5	NC
GND	6	→	6	GND
送信B⊕	7	→	3	受信B⊕
受信A⊖	8	→	2	送信A⊖
GND	9	→	9	GND



※全体をシールドしたケーブルをご使用ください。

※送信側UNITには、通信ケーブル（クロスケーブル）を1本のみ使用してください。

※受信側UNITどうしの接続はストレートケーブルを使用してください。

●コネクターを購入するときは、販売店にご相談ください。

保証とアフターサービスについて

保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には、保証書を添付しております。

1．保証期間について
保証期間はお買上げの日より1年間です。保証書記載の内容により、お買上げ販売店が修理いたします。
その他詳細は保証書をご覧ください。

2．保証期間経過後の修理について
保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有料にて修理致します。

3．故障その他による営業上の機会損失等の補償はいたしかねます。

4．アフターサービスについてのお問い合わせ先
その他アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げ販売店、又は最寄りのピクターサービス窓口にご相談ください。
（別紙ピクターサービス窓口案内をご参照ください）

修理を依頼されるときは

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度、各部の接続、つまみの位置についてお調べください。それでも具合が悪いときは、電源プラグを抜いて次のことお知らせください。

- ●機種名：**PS-D700**
- ●品　名：デジタルマルチプロセッサー
- ●故障の状態をできるだけ詳しく
- ●ご購入年月日
- ●ご住所・ご氏名・電話番号

セッティングの際のご注意

●ミューティング動作について
電源を入れてから数秒間は、ミューティング動作のため音が出ませんが、故障ではありません。

●設置場所について
ラック等に組込みを行う場合は、パワーアンプ等の発熱の大きな機器からできるだけ離して設置してください。やむをえず近くなる際は**1H**以上のスペースをとるようにしてください。
本機を重ねてラックマウントで使用するときには、必ず1Hのベンチレートパネルを上下に1枚づつ付けてご使用ください。
さらに多くの台数をご使用になるときには、ラックに必ずファンを付け、2台重ねた本機の上下に1枚の1Hのベンチレートパネルを付け、このマウントの順番をくりかえして設置してください。

●キャノンタイプコネクターの位相は②番ピンがホット！
本機のキャノンタイプコネクターの使い方は日本電子機械工業会規格です。したがって入力はメスコネクター（**XLR-3-31**相当）で、①番ピン=アース、②番ピン=ホット、③番ピン=コールドの接続となっています。また、出力はオスコネクター（**XLR-3-32**相当）ですが、不平衡出力にする場合は①番ピン=アース、②番ピン=ホット、③番ピン＝接続なしでご使用ください。（34ページ参照）

●電源を入れる時は信号の流れに沿って前から後へ！
PAシステムの電源を入れる場合はパワーアンプは最後に。本機に接続した機器の投入時ノイズによるスピーカーの破損を防ぎます。
電源を切る時は逆…。パワーアンプから電源を切ってください。

●メモリーのバックアップについて
本機は電源を切った状態で約3カ月間メモリーのデータを保持いたします。この期間を過ぎるとメモリー内容は消滅してしまいますので、長期間ご使用にならない場合は事前にメモなどに書き写しておいてください。

※メモリーバックアップが切れた場合の対応について
「MEMORY BACK UP NG.!
PUSH F1 TO CLEAR MEMORY.!」表示がLCDに表示したときは、F1キーを押してください。再起動します。

※このとき、メモリーを消去しますので必ず設定は、メモに書き写しておいていてください。

仕様

※本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

・基本仕様
- ゲイン　－∞～＋6dB
- 入力　2回路、電子平衡
- 定格入力　＋4dBs
- 最大入力　＋24dBs(ヘッドマージンSW＋20dB)
  ＋18dBs(ヘッドマージンSW＋14dB)
- 入力インピーダンス　10kΩ
- 出力　4回路、電子平衡
- 定格出力　＋4dBs(600Ω負荷)
- 最大出力　＋24dBs(ヘッドマージンSW＋20dB,10kΩ負荷)
  ＋18dBs(ヘッドマージンSW＋14dB,10kΩ負荷)
- 適合負荷インピーダンス　600Ω以上
- 周波数特性　NARROW時 20Hz～20kHz ＋0.5dB/－1.5dB
  WIDE　時 20Hz～20kHz ＋0.5dB/－4.0dB
- ダイナミックレンジ　112dB(TYPICAL)IHF-A
- 全高調波歪率　0.03%以下(1kHz,＋4dBs出力 600Ω負荷)
- ADコンバーター　24bit デジタルフローティング方式
- DAコンバーター　20bit リニア
- サンプリング周波数　48kHz
- メモリー　16パターンのメモリー可能
  (コンデンサーバックアップ、保持期間3ヶ月以上)

・エフェクター仕様

1）入力アッテネーター部
- 0～－10dB(0.5dBステップ)
- －10～－20dB(1dBステップ)
- －20～－30dB(2dBステップ)

2）グラフィックイコライザー部

①グラフィックイコライザー
- 周波数　27素子　40Hz～16kHz 1/3octステップ
  54素子(モード4のみ)40Hz～18kHz 1/6octステップ
- ゲイン　±15dB 1dBステップ
- Q　3，4.5，6，12

3）パラメトリックイコライザー部
- 素子数　2素子(モード1，2)
  8素子(モード3，4，5)
- 周波数　40Hz～18kHz 1/6octステップ
- ゲイン　±15dB 1dBステップ
- Q　0.7、1.5、3、6、12

4）ノッチフィルター部
- 素子数　6素子
- 周波数　40Hz～18kHz 1/12octステップ
- ゲイン　0～－15dB 1dBステップ
- Q　24

5）コンプレッサー部

①コンプレッサー
- レシオ　1/1.4，1/2，1/4，1/6，1/10，1/∞
- スレッショルドレベル　－16dBs～＋24dBs(0.5dBステップ)
- アタックタイム　0，1，2，4，8，16，32ms
- リリースタイム　0，50，100，200，400，800，2000ms

②サイドチェーンイコライザー
- 素子数　1素子
- 周波数　40Hz～18kHz 1/6octステップ
- ゲイン　±15dB 1dBステップ
- Q　0.7，1.5，3，6，12

6）ディレイ部
- ①ロングディレイ　5～1280ms　1msステップ
- ②ショートディレイ　0～30ms　20.8μsステップ

7）フィルタ部

①ハイパスフィルタ
- 周波数　20Hz～36Hz　1/3octステップ
  40Hz～10kHz　1/6octステップ
  10kHz～16kHz 1/3octステップ
- スロープ　THRU －6，－12，－18，－24dB/oct
- クロスポイント　－3dBクロス，－6dBクロス

②ローパスフィルタ
- 周波数　40Hz～18kHz　1/6octステップ
- スロープ　THRU －6，－12，－18，－24dB/oct
- クロスポイント　－3dBクロス、－6dBクロス

③シェルビング　(モード2，5のみ)
- 周波数　LOW：40Hz～2kHz　1/6octステップ
  HIGH：2kHz～18kHz 1/6octステップ
- ゲイン　±15dB 1dBステップ

④ピーキング　(モード2，5のみ)
- 周波数　40Hz～18kHz 1/6octステップ
- ゲイン　±15dB 1dBステップ
- Q　0.7，1.5，3，6，12

8）位相切換部　NORMAL ⟷ REVERSE

9）出力アッテネータ部
- 0～－10dB(0.5dBステップ)
- －10～－20dB(1dBステップ)
- －20～－30dB(2dBステップ)
- OFF

10）リミッター部
- ソフトリミッター方式
- スレッショルドレベル　0dBs～＋24dBs
  (1dBステップ)

・通信方式
- 規格　RS-485(D-SUB9P)
- プロトコル　VOSS-D-NET
- ボレート　9600，19200，38400bps
- パリティー　OFF,ODD,EVEN

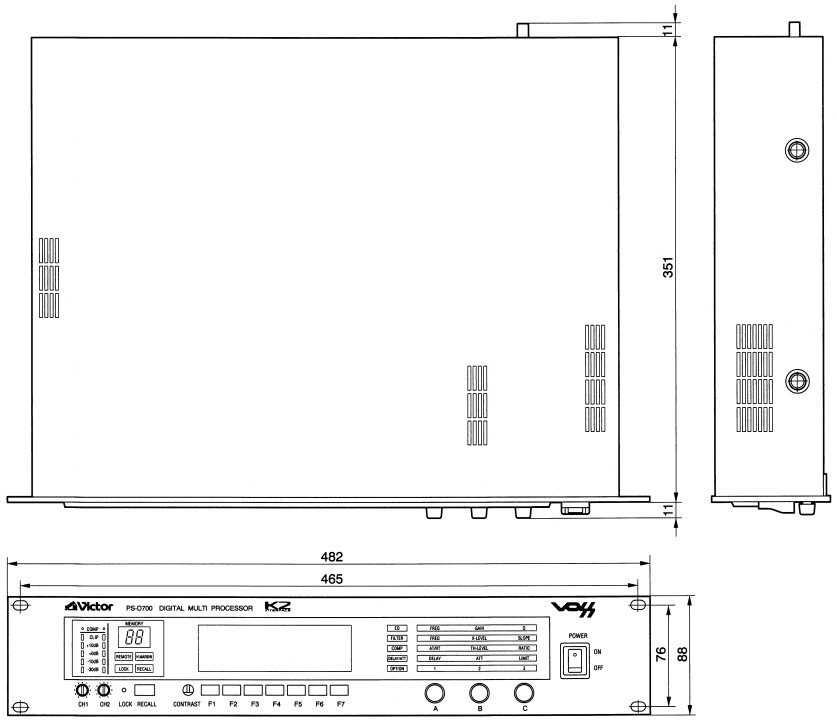
・付加機能
- ヘッドマージン切換え機能
  (＋20dB/＋14dB切換え)
- 操作LOCK機能
- デジタルフィルターロールオフ切換え
  (NARROW,WIDE)
- メモリーチェンジ機能(DIN8P)

・仕上げ及び外観
- フロントパネル面
  黒色アルマイト処理ヘアーライン仕上げ

- 電源　AC100V,50/60Hz 38W
- 寸法　幅482×高さ88×奥行き373mm
- 質量　7.5kg
- 付属品　フット4個、スクリュー(M5)×4個
  スクリュー(M3)×4個、

※ 0dBs=0.775Vrms
※ 本体内部を信号が通過するのに遅延時間(約5m sec)が生じます。

外観寸法図



ブロックダイヤグラム

